

釣れ釣れなるままに

2005年思い出の釣行記 PART. 8

湯泊岬でのソイ釣り

試行錯誤の結末は



6月18日シマゾイ40cm

鹿島釣狂

シマゾイと戯る

☆釣行日 平成17年6月18・19日

☆入釣場所 湯泊岬左

☆釣果 ホッケ 400 mm 以下 14

シマゾイ 400 mm 300mm

クロゾイ 250 mm 2

クロガシラ 250 mm 2

ガヤ 230 mm 8 以下多数リリース

増毛町雄冬天狗岩は、貴誌「北海道のつり」で斉藤豊氏や加藤啓氏によって大物のソイやハチガラ、アブラコが何度も紹介され、一度は入釣してみたいと考えていた釣り場である。しかし、延長工事中だった天狗トンネルは全面開通しており、マッカ岬や歩古丹、そして天狗岩の各名釣り場には出て行くことが出来なくなっていた。別狩方面からの旧国道の入り口には工事関係者のための柵がしてありカギがかかっている。その先はアスファルトの旧国道が続いているので柵が無ければ無理してでも行くことが可能なのだが・・・。

湯泊岬では丁度、先客5名が岬に向かう切り立った崖下を歩いているところであった。準備を整えその後を追うと、先客は流れる汗をぬぐい、息を整えながらも浮き釣りの準備に余念がない。右先端部では若い釣り人がビュンビュンと竿を振っており、時折竿を曲げては魚を取り込んでいる。しかし、根掛かりも多いようだ。

午後5時、岬の左先端に釣り場を構え、高鳴る期待に胸をときめかせて、先端から広角に3本の竿を打ち込む。しばらく音沙汰の無かった竿にも、隣の釣り人の赤い電気ウキが煌々とした輝きを放つようになるとホッケやガヤがポツンポツンと出始めた。10時方向に打った竿には頻りにアタリが出るのだが、途中にある高いサラシ根で根掛かりをくり返し、ようやく取り込むという状況であった。午後8時、クロゾイの25cm程がやってきた。これからソイの入れ食いかと心待ちにしたが期待に反してホッケばかりが続く。

午後10時、ホッケとは明らかに違うガツンガツンとした大きなアタリが出る。リールを懸命に巻くが引き込みが強く、半分ぐらい巻いたところで例のように途中の根に引っ掛かってしまう。ホッケでは何度か繰り返していたように強引に引くと幸いなことに抜けてきた。そして、磯際まで寄せた時にまたまた張り出した根に向かってガクンガクンと鋭い突っ込みをみせた。根に入り込まれないように竿を操作しながらようやく磯際の低い岩の上にずり上げたところで魚はずれてしまった。次の寄せ波に乗って逃げられてしまうなと思いながらも必死に岩壁を下りて近づく。幸いにも小さな寄せ波だったので、その体を横にしてバシャバシャとやるだけで逃げていかなかった。素手であったがわりと簡単に掴むことが出来、懐に抱えて高い岩の上に駆け上がった。メジャーを当てると40cmを超えている。背ビレのトゲを刺したらしく、手のあちこちがズキズキと痛む。明るくなってから見ると左人差し指の先がパッキリと割れていた。

その後、さらに大物をと午前5時まで粘ったが、それ以上のものは釣れなかった。本日

は日曜日である。どこか大きな釣り会の大会でもやっているのだろうか。この界限ではあまり見かけることのない風景だが、出て行けそうな岩場の先には釣り人がびっしりと入り、昇りかけた陽光を受けてその動作一つ一つが輝きを放っていた。

ソイの引き釣り仕掛け

☆釣行日	平成17年7月9・10日		
☆入釣場所	湯泊岬右		
☆釣果	クロソイ	250 mm	3
	ハチガラ	230 mm	1
	ガヤ	200 mm	20 以下多数リリース

本日は、新たにソイの引き釣り仕掛けを作ったのでそれを試釣してみる。1号鉛を何個か通した自作U字天秤にイカゴロやサンマをつけて静かに引く。この磯は深さが無く、しかも縦溝・横溝が複雑に入り組んでいるのでゆっくり引くと根掛かりする。イカゴロ1本につき3回引くことができる。イカゴロを15本使ったがアタリが出なかった。

同じ仕掛けをウキにつけて同じように静かに引く。根掛かりを気にすることがない分、更にゆっくりと引くことができる。薄暗くなり始めた19時ごろからガヤが釣れ始める。そのガヤに混ざってクロソイやハチガラも来た。

私の隣でぶっ込みをしていた釣道会の御仁には釣果がなく、自分もウキ釣りを用意しておけばよかったと呟く。それを聞いて、当初の目的とは違う釣りをしている自分の優柔不断さに呆れてしまう。浮き釣り竿を置き、あらためて引き釣りを試みる。しかし、根掛かりも多い上に引くスピードが分からず、更なる改善の必要に迫られた。

ゴロの引き釣りは方法としては間違いないと考えるのだが竿、道糸、仕掛け、オモリ、イカゴロの処理等、課題ばかりが残った。イカゴロは塩をして水分を抜いておくか？引き釣りなど諦めて、ウキ釣りに専念するか・・・？

開発した仕掛けも

☆釣行日	平成17年9月10日(土)		
☆入釣場所	湯泊岬一帯		
☆釣果	ハチガラ	260 mm	1

本日は、新たなソイ釣り仕掛けを試すために来た。前は飛距離が出なかったのと、根掛かりが改善されないでオモリを重くし、ハリスに付けた浮き球を大きくした。20号投げ竿1本と仕掛け、エサを入れた小さなバツカンを持つだけで大変身軽である。

10号鉛2個をつけた80cmの自作天秤にサンマをつけて海底の岩を感じながら静かに引く。意図したように遠投は可能になったが、根掛かりのほうは改善されたように思えない。特に手前のカケアガリでハリの部分が根掛かりする。10号鉛1個ではさすがに飛距

離が出ない。8号鉛2個で丁度よいところか。ハリスに大きな浮き球をつけないと1発で根掛かりする。浮き球2個でエサを浮かせるだけの浮力があるが、3個が無難なところか。本日は仕掛けの消耗が激しく、釣果もハチガラ1本であったが大いに満足している。仕掛けを引いているときにアタリが出て無事取り込むことが出来たことと、湯泊岬全域の磯模様を把握できたからだ。さらに重要なヒントを発見した。もう一度改善を加えて魚の寄りが見られる11月ごろに試してみたい。

暗くなるまで同僚から聞いていた箸別川に向かう。河口から2kmほど上流の青い橋の先を右手に入ると堰堤があった。その堰堤下で竿を出す。30cm上のアメマスが堰堤を遡上しようとジャンプしていた。そこで35cmのアメマスが出る。すぐ下流で同じく33cm程が出る。ニジッコもきたが毎原氏が言っていたヤマメというのはこのことではないだろうか。(正真正銘のヤマメと言う。さらに、もう一つ上の橋の先にある堰堤から釣り上げる)

地元の釣り人が来る。釣果はなかったが、僅かな時間を見つけてこの付近を釣っているとのことである。ヤマメは釣ってもせいぜい10匹程度だが、堰堤下で40cmのニジマス釣り上げたこともあると言う。

上流に向かったが見るからに大物が出そうな淵にも魚はいなかった。

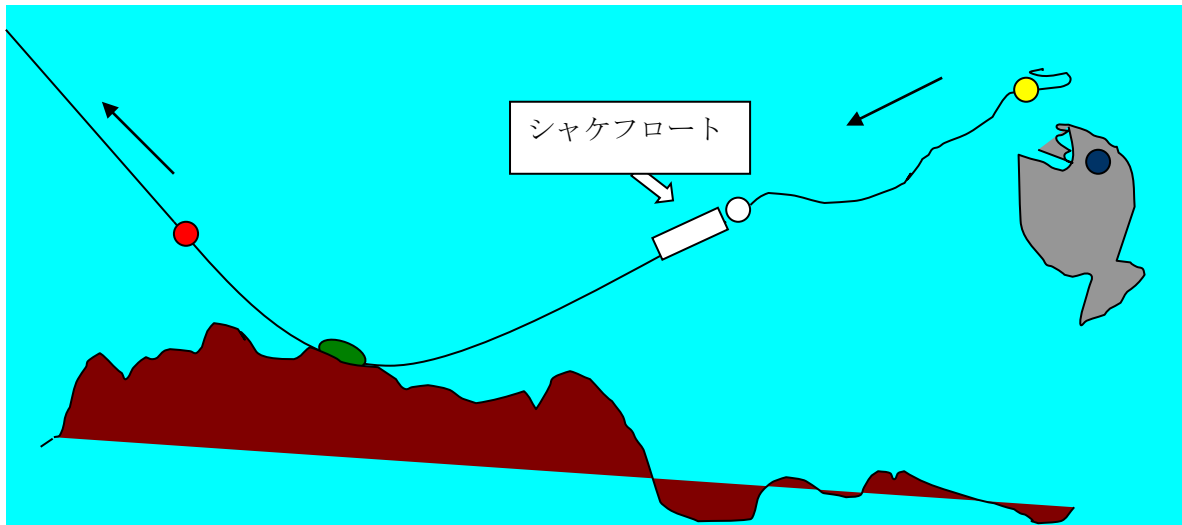
帰り際にもう一度堰堤に寄ると、シャケが浅瀬にいた。パチャパチャと川に入っていったところで流心に入っていき、二度と姿を見せることはなかった。

7月1日の解禁日に車で行けるところまで行って試したいところである。

思い込みという錯覚 (仕掛けの弱点を発見)

このU字形天秤仕掛けは、U字形の中心下部にオモリが位置するので、天秤の両端が浮いていると想像していたが、実際には天秤が横に倒れたり、反対にn字形になっている。これではいくらハリスに浮き球を付けても、天秤の先が海底のすぐ上を移動することになるので根掛かりするのは必至だ。思い込みという錯覚は恐ろしい。自分にとってまさにニュートン並の新発見である。

シャケ釣り用のフロートを天秤のハリス側に装着する(図1)。初老の何事にも動じなくなってきた胸をあらためてときめかせながら風呂の中で実験してみるとイメージ通りの動きになり弛んできた頬の肉が気味悪く歪んだ。



☆釣行日	平成17年10月9日(日)			
☆入釣場所	湯泊岬左			
☆釣果	クロソイ	300 mm	8	
	ガヤ	200 mm	3	

湯泊岬右は磯波が岩にあたって飛沫をあげているので、平盤左に入って8号鉛2個の天秤で試釣してみる。イメージ通り根掛かりはない。

夕暮れになってから、手前のカケアガリを引いている時にゴツゴツと初アタリがあり、それに合わせると25cmほどのクロソイが釣れた。ぶっ込み状態になっていた引き釣り仕掛けにも30cmのクロソイがきた。光が強すぎるかなと考えていた25mmケミカルライトに被せたピンクタコベイトにかぶりついていたのである。

その後、ウキ釣りと平行しながら試釣するが、ウキ釣りに頻繁にアタリも出てソイも上がるのに比べて引き釣りの方はイマイチであった。ある程度の結果は出たので、ウキ釣りに専念した。

サンマによる引き釣りの結果は上記になるが、イカゴロを引くとどうなるかについては今後の課題になる。

試行錯誤の上に

☆釣行日	平成17年11月3日(木)文化の日			
☆入釣場所	湯泊岬右			
☆釣果	シマゾイ	400 mm	2	
	クロソイ	280 mm	5	
	ガヤ	250 mm	5	

本日はU字天秤の道糸側にトンボを出して2本バリとし、投げ釣り2本で交互にぶっ込みと引き釣り、エサはサンマと豆イカ、イカゴロで試してみた。ぶっ込みのイカゴロの頭にガヤが食いついてきた。引き釣りの豆イカ胴体部分にクロソイが食いついてきた。15cm程の長さに切った大ぶりのサンマにもシマゾイが食いついてきた。引き釣りだと小さなアタリにも対応しやすく魚に合わせる事が出来る。

午後10時頃、エサにイカゴロとサンマを付けて放り込んだ。糸ふけを取ろうとリールを巻き始めた時に、ゴツゴツとアタリが出た。リールを止めて一呼吸おき、ゴンゴンとしたアタリに合わせてとギューンと竿を伸された。大物だ！ 慎重に磯際に寄せてから一気にごぼう抜きすると見事な体高のシマゾイであった。ユラユラと落ちてくるイカゴロが魅力的で思わず食いついてしまったのだろう。これが本年度最後のソイ釣りとなったが、何度も試行錯誤しながら辿り着いた結果と受け止めたい。来年度の釣り大会では、今まで手のでなかった荒磯で使用し、釣り上げた大ゾイや大アブラコで仲間を唸らせてみたいものである。



11月3日シマゾイ40cm